

登録コード	E4380903	開講年度	2026			
授業科目	初等家庭科指導法基礎D				担当教員	JUNG HYOJUNG
英文授業名	Teaching Methods of Home Economics Education D				副担当	山岸 明浩・沖嶋 直子
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学生
講義室	教育N 3 0 1 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	小学校家庭科の指導に必要な知識と技能を、具体的な教材や指導例を通して学び、指導力を身に付けるとともに使命感を持てるようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	小学校家庭科の指導に必要な知識と技能を、具体的な教材や指導例を通して学び、指導力を身に付ける。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	小学校家庭科の教育的意義、目標、内容、教材、評価、指導例、指導上の留意点等を解説します。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。 受講生の皆さんは、毎時間教科書の該当箇所の予習復習を行うとともに、講義に欠席せず、理解しにくい箇所は教員に主体的に質問するなどして、毎回授業内容を自分の生活および指導力に照らし合わせて、自己の生活の充実と自己の指導力の両側面から課題解決に繋がるように学習に取り組んで下さい。 模擬授業の提案では、小学生の興味関心や発達段階に関する理解を深め、他の教科の履修状況も意識しつつ、家庭科授業について学習を進めて下さい。さらに基礎的な家庭科指導技能について、幾つかの指導方法を理解し、自らの苦手な部分の克服に繋げる努力をして下さい。					
(5)授業計画	第1回：小学校家庭科の教育的意義、目標、主な指導法（情報機器活用を含む）、評価の観点(山岸) 第2回：住まいの整理・整頓や清掃の仕方に関する指導内容や指導方法、教材（山岸） 第3回：住まいの主な働きと季節の変化に合わせた生活に関する指導内容や指導方法、教材（山岸） 第4回：家庭の仕事と生活時間に関する指導内容や指導方法、教材（鄭） 第5回：物やお金の使い方に関する指導内容や指導方法、教材（鄭） 第6回：食事の役割や調理の基礎に関する指導内容や指導方法、教材（沖嶋） 第7回：栄養を考えた食事に関する指導内容や指導方法、教材（沖嶋） 第8回：模擬授業に向けた班活動1（山岸） 第9回：模擬授業に向けた班活動2（鄭） 第10回:模擬授業に向けた班活動3（沖嶋） 第11回：住生活領域の模擬授業（山岸） 第12回：家族・家庭生活領域、消費生活・環境領域の模擬授業（鄭） 第13回：食生活領域の模擬授業（沖嶋） 第14回：まとめ、授業アンケート（鄭） ※授業回の順序は入れ替わる場合があります。					
(6)成績評価の方法	評価は概ね以下の通りとする。 ・小学校家庭科の目標、内容、評価の観点等を理解し、教材を工夫できるようになったかを課題、指導案、模擬授業により評価する。（30％） ・小学校家庭科の目標、内容、評価の観点等を理解し、授業を構想・実践できるようになったかを課題、指導案、模擬授業により評価する。（60％） ・小学校家庭科の指導力向上のための意欲や態度等、模擬授業への取り組み状況を総合的に評価する。（10％）					
(7)成績評価の基準	（i）自ら文献や資料を探して調べ精査し、（ii）自分の見解を適切に提示し、（iii）他の意見を取り入れ相互に学び合ったものを生かし、提出・実践された課題、指導案、模擬授業について、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（iii）の3項目をすべて満たしていれば、教員を感心させるレベルになくとも「かなり上にある」。関連する情報が十分でなくとも教員を感心させるレベルにあれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業では、前週、または次週の授業内容にかかわる発問を毎回行うので、履修にあたっては事前・事後の取り組みを行い授業に臨むこと。 この授業は、90 時間の学修を必要とする。従って、60 時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	全回出席すること。理由の如何を問わず、欠席回数が多く授業の達成目標に到達することができない場合、単位認定に至らないので注意すること。					
(10)質問、相談への対応及び連絡先	事前に教員にメールし、日程を相談の上、個別に対応する。 鄭 暁静 (hyojung@shinshu-u.ac.jp) 026 (238) 4186 山岸明浩 (yamaaki@shinshu-u.ac.jp) 026 (238) 4187					

(10)質問，相談への対応及び連絡先	沖嶋直子 (okishima_naoko@shinshu-u.ac.jp) 026 (238) 4186
【教科書】	『小学校家庭科教育法』大竹美登利ほか(建帛社)
【参考文献】	小学校家庭科の教科書 文部科学省「小学校学習指導要領」 文部科学省「小学校学習指導要領解説 家庭編」